

平成28年度第4回総合教育会議 会議録（要点筆記）

平成29年2月23日（木） 午後4時30分～午後5時30分 仮庁舎2階 第1会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	西田 弘志
教育委員長	荒木 由紀子
委員長職務代理者	河田 奈保子
教育委員	山田 誠次
教育委員	堀 浄信
教育長	吉本 哲裕

【市長部局：事務局出席者】

総務部長	本田 真一
総務課 行政係 主幹	赤司 和弘
総務課 行政係 主事	千々岩 健史

【教育委員会：事務局出席者】

教育総務課長	坂本 禎一
生涯学習課長	田中 慶二
指導主事	中田 慎哉
教育総務課 総務係 課長補佐	鎌田 みゆき
教育総務課 総務係 参事	牧 千世

【傍聴者】5名

1 開会 （司会進行：総務課 赤司主幹）

・市長あいさつ

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。この総合教育会議の場を利用し、教育委員の方々と意見交換しながら、水俣市の教育の方向性を共に決めていきたいと思っています。今回は「学習支援」がテーマですが、私の教育に寄せる思いとか、皆様方の今まで教育委員としてやってこられて、感じられたこと等を話すことができればと思っています。よろしくお願いします。

2 議事 （市長招集のため、市長が議長となり進行）

(1)協議・調整事項

テーマ「水俣の子どもたちの学習支援について」

市長：私自身、水俣で生まれ育って、自分の子どもを3人水俣で育てました。初めて私が市議会議員に出馬した時の理由は、水俣の子ども達が「水俣に生まれて良かった」と思えるような水俣にしたいという思いからでした。

50年、100年というスパンで考えると「教育」は水俣にとって、とても大切な問題だと認識しています。そのために、水俣の子ども達に良い教育環境を与えて、子ども達の教育のレベルアップを図りたいと思います。

現在、水俣高校への支援を積極的に行っています。水俣高校はSGH（スーパーグローバルハイスクール）として、国の指定を受けたことで、徐々に注目を受けるようになってきています。市としても、水俣環境アカデミアを通じた慶応大学との連携やデボンポート（オーストラリアの姉妹都市）との交流支援などの取り組みを進めています。水俣に高校は一つしかないので、市も積極的に関わっていきたいと考えています。九州新幹線の全線開通により学校の選択肢もふえており、水俣高校の良さを地元の小中学校の子ども達や保護者の方々にもっと知ってほしいと思います。水俣高校における生徒・人材の確保として、水俣の小中学校の学力のアップが一番必要ではないかと思っています。

現在、学校では放課後補充教室、シルバー人材センターの方で「おさらい教室」を実施していますが、結果が見込めるようなら、もっと市として支援ができればと思います。また小中学校の連携の一環で、平成29年度の事業として、小中一貫教育について、教育委員会で実験的に研究するとのことですので、果たして水俣に小中一貫が根付くかどうか、プラスになるのかどうか、見極めたいと思っています。それと予算が関係しますが、IT化の推進も考えています。また「水俣科」の授業を通して、ふるさとを好きになって頂きたい。また環境に対して、意識の高い子ども達であってほしいと思っています。

最後に、貧困の問題が気になっています。水俣でも、いろんな形で貧困の影響がでているのではないかと推測しています。貧困が教育の格差につながるのではないかとということを非常に心配しています。行政として何らかの支援ができるのであればやっていきたいという思いです。水俣の子ども達を、私達みんなで育てていきたいですね。

市長：まず水俣の子ども達の基礎学力の現状について、事務局から、かいつまんで説明をお願いします。

中田指導主事：基礎学力を図る物差しとして、本市が活用しているのが、全国的なもので「標準学力検査」になります。標準学力検査においては、全国水準を50とした時に、水俣の小中学生は、4.1ポイント超えています。中学生は0.4ポイントということで、ほんの少し超えているということになります。

市長：この学力を上げる施策として、放課後補充教室等が実施されていますが、教育委員の方々と、何かご意見はありませんか。

堀委員：情報提供になりますが、児童養護施設光明童園では家庭学習の時間が中々とれず入所している児童の基礎学力が低い現状があることから、月曜日と木曜日、15時半から、シルバー人材センター主催の4名の指導員による学習支援教室が実施されています。とてもありがたいと思っています。

市長：児童養護施設にいる子ども達は、学習環境が厳しい面があると思うのですが、学習についての、意欲や習慣はどうですか。

堀委員：福祉が非常に大事ですね。マズローの欲求5段階説にありますように、人は安全欲求が満たされてはじめて、学習に集中できると思いますので、生活環境を整えることから始めています。

荒木委員長：学力は全体的に上がるのが一番ではありますが、社会で生きていける学力をどの子にも付けることが重要です。低学力の子どもには、より手厚い支援が必要だと思います。「学びたい気持ち」や、「頑張らないといけない気持ち」は大人になっても、大切ですので、単にその場だけの知識ではなく、学び方や生き方の知識が大事ではないでしょうか。

市長：家庭での教育が難しくなってきたと聞きます。行政として何か支援できないかと思いますが、どうでしょうか。

荒木委員長：一人親家庭等は、経済的に非常に厳しいと聞いています。そのような家庭の子ども達は、家の手伝いに精一杯で、学習の時間が取れません。そして社会学習する時間もありません。例えば親と旅行に行ったりして、見たこと聞いたことについて会話する時間もないのです。そんな子ども達は、自己肯定感がとても低いのが特徴です。そこを、福祉や地域との連携でカバーしていく必要があるのではないのでしょうか。

河田委員：私は学力アップのためには、ただ机に向かっての勉強だけではないということを痛感しています。地域を知る勉強の「水俣科」が土曜授業の中で実施されていますが、学校と地域が密接になることによって得られるものがたくさんあると思います。昨年度、教育委員研修で豊後高田市の取組を視察してきました。豊後高田市の寺子屋事業のような事を、一から始めるのは大変ですが、現在シルバー人材センターがやっている、学習支援について、行政が協力することによって、更に大きな効果を得ることができるのではないのでしょうか。

また、水俣でも貧困の影響があって、学力の伸び悩みがあるのではないかと思います。現在人口減で子どもの人数が減っていますが、水俣市として、特色のある教育を考える必要があるのではないかと思います。例えば、袋小と袋中を小中一貫校にするとか、久木野小は自然の中で教育を受けたいと考えている児童を受け入れるとか、湯出小は、温泉があるので、体調の悪い子ども達が、療養しながら教育を受けることができる学校にするとか、何らかの特色のある教育で水俣に人を呼ぶことができないかと思います。

また、学校と地域との交流をふやすため、学校から地域に参画することも必要ではないかと思ひます。

山田委員：私は水俣が「住みたいまち、産み育てたいまち」であってほしいと思っています。教育の格差と学力の格差は一緒ではありません。学力の面だけに目を向けるのは良くないと思います。教育の格差は、考える方法や、人と人とのコミュニケーション能力など自己肯定感につながるような色々な体験の格差が広がる事だと思います。その点に配慮した教育ができると、先々自立した大人になるのではないかと思います。自分の人生を見通せるまちなになればよいと思ひますし、水俣に何が必要で何ができるかを考えることが大事だと思います。ITの操作よりもその活用を考えることの方が大切だと思います。

昨年度視察した豊後高田市の「わくわく体験活動事業」は、伝統文化に触れたり、お年寄りと一緒に活動したりする事業でした。そういった経験を積み重ねてほしいと思ひます。

吉本教育長：子ども達に「帰巢本能」を持たせることができるような、まちづくりができればと思ひます。昔は地域が非常に家族的でしたから、子どもは、地域で育てられ、生きる力を身に付けることができました。しかし、人口が減少し、高齢化も進んでいる現在、地域の力が希薄化している気がします。そして、そういった「育てる力」を、全て学校に求めてくる傾向があると思ひます。しかし、学校にも限界があります。私は地域には、まだ潜在能力があると思ひます。地域のマンパワー等を活用して、子ども達の教育にどれだけ反映できるかが、私達行政に求められていると思ひます。これまで学校でも手をつくしていますが、それらを分析しながら行政全体で考えていく必要があると思ひます。

荒木委員長：貧困が教育の貧困につながるというところで、私は「入力」が貧困になるのではないかと思います。経済的に厳しい家庭は、色々な体験や、人とのつながり等の「入力」がとても少ないと思ひれます。子どもの時に、他の人と切磋琢磨したり、色々なものを見て感動したりとかいう経験が不足しているのではないのでしょうか。経済的に豊かな家庭では、塾にやったり、旅行に行ったり、映画をみたりして、様々な情報を「入力」できますが、貧困家庭では難しいと思ひます。子どもは親の悪口は絶対に言いません。むしろ親が悪くならないように取り繕うことが多いです。例えば朝食を食べてきてなくても、食べてきたと言って、貧困状態を隠そうとします。そこに気が付いて、経済の貧困が「入力の貧困」につな

らないよう配慮する施策が必要です。シルバー人材センターの学習支援や、学校の「水俣科」の授業で、地域の人達と交流することなどは、「入力」の機会を増やしていると言えます。今後、もっと心を揺り動かす「入力」につながる体験を行政の力で増やせればと思います。現在、水俣では本好きな子どもが育ってきています。学校に行くと、図書館を利用する子どもが増えていて、「日本一の読書のまちづくり」等の施策の影響を感じます。

堀委員：現在は教育にお金をかけすぎる、過保護・過干渉な家庭と、貧困等で学習が放任状態である家庭との格差が両極端になっています。現在「きらりさんネーム」といわれる中々読めない難しい名前の子どもが増えており、子どもの名づけ方に現在の教育状況が現れていると言われています。これは、子育てが自由化して、社会というより、各家庭の方針に教育を任している部分が大きくなったことの現れともいえます。江戸時代までは、「一郎・次郎・三郎」のような、皆が呼びやすい名前が多く、子どもを社会で教育していました。今後は教育の家庭での孤立化を防ぐためにも、社会と子どもをつなげる機能が必要になっていると思います。

山田委員：最近の子どもは、教えてもらう喜びが足りない気がします。自分で考えて、自分で解決することに重きを置きすぎて、例えばコマ回しを教えてもらうなど色々な人から教えてもらって上手くできたとか、教えてもらってできたことの喜びを経験したことのない子どもが多いのかなと感じます。

堀浄信委員：現在芦北には、芦北特別支援学校がありますが、水俣には特別支援学校がありません。保護者達が水俣に支援学校を設置してほしいと声をあげています。先程「住みやすいまちづくり」の話がありましたが、実際住んでいる人の口コミが大事だと思います。水俣に住む人は、小・中・高の特別支援学校に行けるという状況を作り出すのはいいのではないのでしょうか。

市長：現在、水俣には支援学校はありませんが、芦北の支援学校に通う生徒のために通学バスを出すよう準備しています。これは、センコー（株）から100周年記念でバスを寄付頂いて、市の予算で運転手を雇って、支援学校までの送迎を予定しております。また現在、発達障がいの子が多いので、学校には特別支援教育支援員を少しずつ増やしています。

河田委員：例えば湯出小学校を、特別支援教育に特化した学校にするといいのではないかと思います。「水俣だと、いろんな学校の選択ができるよ」というようなまちづくりがされると良いのではないのでしょうか。

荒木委員長：支援学校の設置には、学校教育法等の法律の関係があるので、簡単ではありません

せんが、現実に八代市立の支援学校がありますので、参考になるのではないかと思います。

市長：時間がきてしまいました。次の総合教育会議でも、皆さんの意見をお聞かせ頂ければと思います。本日はありがとうございました。

3 その他 （総務課 赤司主幹）

総合教育会議につきましては、今後も教育施策の推進のための意見交換ができればと思います。会議開催の折には文書で通知いたしますので御出席をお願いします。

4 閉会